

平成十九年度入試報告

東大合格公立校現役位
文武両道で志望大合格果たす
進路指導部長 門井 了

平成十九年度入試は、受験生の集中する大学とそうでない大学の二極化がさらに進行しました。また、後期日程廃止、それに伴うAO・推薦入試の拡大、センター理科3科目を課す大学の増加の中で行われました。

センター試験は、教育課程の変わり目ということと昨年度は大幅に易化しましたが、本年度は例年並みの平均点に落ち着きました。本校生の平均点は900点満点で、文系(6教科7科目)が681.0点(昨年724.5点)、理系(5教科7科目)が690.0点(昨年736.4点)と、昨年度に比べて大幅にダウンしました。しかし、全国的にみて上位層は平均点の落ち込みには関係なく高得点をマーク、超難関といわれる大学では厳しい入試が展開されました。

国立難関大及び医学部医学科志向に変動はありませんでした。新卒生に限ると、北大、東北大、東大、東工大、一橋大、大阪大、京都大、それに地元筑波大と国立大医学科の実受験者数は239名で、これは国立大実受験者総数の88.8%にあたります。合格者は88名で国立大合格者123名の71.5%になっています。

新卒・既卒合わせた国公立大合格者数は193名(昨年189名)でしたが、東大28名(昨年21名)と地元筑波大51名(昨年39名)で大きく躍進しました。東大は全国公立校現役トップ、筑波大は全国で現役、総数ともトップでした。

その他の主な国立大学を前年度と比較してみると、合格者を増やしたのは、茨城大11名(プラス2名)、東工大8名(同3)、一橋大6名(同2)、横浜国大は昨年合格者がいませんでしたが、4名の合格者を出しました。逆に減らしたのが、北海道大4名(マイナス4名)、東北大19名(同3)、千葉大11名(同6)、東京外語大3名(同1)、京都大3名(同1)、大阪大1名(同6)となっています。新卒生が合格した国立大進学数は5年連続25年前でした。公立大では、7名が合格(前年比マイナス5名)、地元県立医療大の合格者は1名でした。

医学部は、国立大学医学部医学科に限定すると、13名(昨年21名)が合格、新卒生では延べ50名(昨年43名)が受験し、筑波大に2名、秋田大、山形大、信州大、宮崎大、山梨大、徳島大の各大学に1名ずつ、計8名(昨年10名)が合格しました。

私立大の総受験者数(新卒生・過年度卒生の延べ合計数)は1459名(昨年1312名)、合格者数は684名(昨年671名)、新卒生に限ると、受験者数が988名(昨年871名)、合格者数は58名増の393名でした。センター受験での合格者が増加、東京理科大(110名)と早稲田大(121名)で三桁の台に乗せました。

新卒生の進学率は67.7%(昨年57.5%)でした。私立大への進学者が96名(昨年71名)と増えたことが特徴的です。本校は受験に特化したカリキュラムをとらず、文武両道を奨励しております。多感な時期、小さく凝り固まらず、様々な体験を通して大きく成長し、そして、やがて、世界に羽ばたいていくことを期待してやみません。

平成19年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

大 学	合格者	新 卒
北海道大	4	1
弘前大	1	
岩手大	1	
東北大	19	14
秋田大	2	1
山形大	2	2
茨城大	11	10
筑波大	51	38
群馬大	1	
埼玉大	1	1
千葉大	11	6
お茶の水大	6	5
東京大	28	19
東京医歯大	1	1
東京外語大	3	3
東京学芸大	3	2
東工大	8	4
東京農工大	2	1
一橋大	6	3
横浜国大	4	1
新潟大	1	
山梨大	1	1

大 学	合格者	新 卒
信州大	6	4
静岡大	1	1
名古屋大	2	1
京 都 大	3	
大阪大	1	1
神戸大	1	1
徳島大	1	1
九州大	2	
宮崎大	1	1
琉球大	1	
国立大計	186	123
(医学科)	(13)	(8)
県立医療大	1	
群馬県立女子大	1	1
首都大東京	3	2
横浜市立大	1	1
大阪府立大	1	
公立大計	7	4
国公立大計	193	127
防衛大	3	2
大学校計	3	2

大 学	合格者	新 卒
青山学院大	21	18
学習院大	8	6
慶応大	68	40
国際基督大	7	6
上智大	30	18
中央大	32	13
津田塾大	15	13
東京女子大	15	10
日本女子大	11	9
東京理科大	110	39
明治大	68	44
立教大	37	24
早稲田大	121	72
法政大	18	9
北里大	13	8
芝浦工大	6	3
日本大	9	4
同志社大	1	0
立命館大	1	1
産業医大	1	0
その他	92	56
私立大計	684	393
合格者総数	880	522